

テスト設計コンテスト U-30 クラス – アピールシート

チーム ID	S230328001	チーム名	勇往米進
--------	------------	------	------

チームの紹介

この項目ではチームやメンバーの紹介、チーム全体の基本コンセプトを記述します。

チーム紹介

■チーム名: 勇往米進 ■メンバー: 佐護、原、小林、桑原、NABE

メンバー全員がテスト設計に対してほぼ初心者であり、出身地が新潟である。そこで初心者でも恐れることなく良いテスト設計をするために進んでやっ払いこう(勇往邁進する)というのを目標とし、プラスで新潟の名産「お米」をかけたチーム名にした。

全体のコンセプト

コンセプトは、以下の3つです。

1. テスト実施工数に対して多くの欠陥を見つける
2. 抜け漏れのないテストケースを作成する
3. 割り勘の計算機能を重視したテスト設計を行う

チームのテスト設計の強み・アピールポイント

各工程の強み・アピールポイントを以下に示す。

■テスト要求分析

・テストベースを「仕様の不備」「機能」「疑問点」に分解して読んだことで、テスト対象の理解だけでなく、効果的なフィードバックができ、さらに、網羅的に機能を抽出することができた。

・フィードバックの「疑問点」や「指摘」への回答をテスト開発元の回答を想定して記載したことでアプリの仕様がより明確になり、一貫性のあるテスト設計が行えた。

・品質特性(製品品質及び品質副特性)をベースにしたマインドマップを使用したことで、網羅的かつ連想的にテスト観点を洗い出せた。

・テスト対象にするかどうかを、テストの目的やテストを担当するチームの責務に合致するかどうかを判断して決定した。

・限られた期間内で有意義なテストを実施する為、テスト観点に対して市場への影響度を「高」「中」「低」の3段階に分けて優先度を付けた。

■テストアーキテクチャ設計

・テストタイプごとにテストする観点を視覚化するために、テストの全体像を図に示した。

※ 全体でA4縦 4 ページに収まるように記述してください。

- ・テストに使用する端末の OS を日本でのシェア率を調べて決定した。
- ・テスト対象機能とテスト観点を関連付けるためにマトリクスを作成し、機能と観点の抜け漏れがないことを確認しやすいようにした。
- ・テスト実施結果が NG の場合のテストへの影響を考慮してテストの実施順を決定した。
- ・テスト実行者が 2 人であること、テスト実施に使用する OS などを考慮し、テスト実施計画を決定した。

■テスト詳細設計

- ・テストタイプ別でテスト設計方針を考えたことで、様々な観点からのテストケースを作成することができた。
- ・機能テストのテストパターンを整理する時に、有効的なテストの設計技法を選択して使用したことで、抜け漏れがないテストケースの作成を導出することができた。
- ・このアプリは金額の計算が重要な機能のため、端数が発生する計算や負担割合のバリエーションなどを増やしリスクを回避するようにした。
- ・使用性テストではユーザーの利用頻度が高い条件でテストするため、マインドマップと 6W2H を使って Warikan の利用環境を洗い出した。
- ・使用性テストではユーザーの使用感の評価のため、期待結果が人により異なるため ISTQB で定義されているユーザアンケートの技法を使用した。

■テスト実装

- ・テスト所要時間の目安をそれぞれの動作を想定して分けたことにより正確にテストの所要時間を決定することができた。

チームの戦略・方針

この項目では、チームの作業の進め方や成果物の特徴を、設問に従って記述します。他文書（審査対象の成果物など）への参照で記述しても構いません。

プロセスの説明

チームのテスト設計のプロセス(テスト要求分析・テスト詳細設計といったアクティビティと、テストケースといった成果物の関連性)の全体像を、モデル(PFD やアクティビティ図など)や文章で示してください

※ 全体でA4縦 4 ページに収まるように記述してください。

チームのテスト設計プロセスの全体像を PFD で記述した。
→ 勇往米進_成果物 0_テスト開発プロセス.docx を参照。

テストベースからテストケースやテスト手順までのトレーサビリティをどのように確保しているか説明してください

Warikan の機能に機能 ID を割り振り、テストケースを記述する際に対応する機能 ID を記載することでトレーサビリティを確保した。

テストの構造の説明

採用したテストアーキテクチャが一般的なものより優れているポイントを記述してください

テスト対象機能とテスト観点を関連付けるためにマトリクスを作成し、機能と観定の抜け漏れがないことを確認しやすいようにした。

テストベースに対する網羅性の確保(目的を満たすようにテストベースを網羅する)で、どのような工夫をしたか記述してください

3 色ボールペン法を活用して機能を漏れなく挙げていった。さらにテスト観定についてはテスト観定の網羅性を高められる品質特性(製品品質及び品質副特性)をマインドマップのベースにしたことで、幅広い観定を上げることができた。

テストベースに対するピンポイント性の確保(無駄なテストを作らない)で、どのような工夫をしたか記述してください

テストの目的やテストを担当するチームの責務に合致しないテスト観定は要求分析の段階でテスト対象外にした。また、他のチームの責務であると判断した観定やシステムテストの目的に合致しないと判断した観定も対象外にした。そして、限られた期間内で有意義なテストを実施する為、テスト観定に対して市場への影響度を「高」「中」「低」の 3 段階に分けて優先度を付け、市場への影響度「低」の観定は欠陥が発生しても市場への影響が小さいためテスト対象外とした。

※ 全体でA4縦 4 ページに収まるように記述してください。

活用した技法や手法の説明

以下のテスト設計技法のうち、今回使用したものを選択してください(記述内容のうち、使用した技法を残し、使用していないものを削除してください。各定義はJSTQBに従います)

同値分割法、境界値分析、デシジョンテーブル、エラー推測、その他(ユーザアンケート)

テスト設計についての既存の方法論(HAYST 法、VSTeP、ゆもつよメソッドなど)や体系(ISO29119、STEP など)で、今回使用したものがあれば記述してください

3色ボールペン法、品質特性及び品質副特性(ISO/IEC 25010)、マインドマップ、6W2H